

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
災害心理学 Disaster Psychology		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(情報処理士申請科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹仁美	講義棟3階	水・木・金（授業時間と学生相談時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
日本は災害多発国であり、いつどこで災害が発生するかわからない。災害時の混乱に対処し、被害を最小限に抑えるために災害時の人間の心理や行動の特徴を知っておくことは大切である。この科目では、①予測困難な自然災害や事故などの災害に遭ったときの人間の心理と行動の特徴、②災害体験による心理的变化の特徴、③災害時にどのような行動をとり、どのような支援ができるのか、を主たる学習内容とする。				
授業の目標				
①災害時と平時では人間の行動の心理が異なることをふまえ、緊急時に避難する際の準備行動を身につけることができるようにする。②災害体験による人間の心理的变化はさまざまであることを念頭に、被災者の立場に立った支援の基本的行動を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
講義形式とグループワークによる参加型形式。				
学習の成果（学習成果）				
①地域のハザードマップを活用し、災害時に自らの命を守る行動をとることができる。②災害体験が人間に与える影響とその心理的变化をふまえ、被災者の心を守る支援的行動をとることができる。③災害体験後のストレス障害が長期にわたって当事者の心身に悪影響を及ぼすことがあることを念頭に、長期的・持続的な支援の必要性を認識し、自らにできる支援行動をとることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス：授業の概要や目標の説明 成績評価や受講上のルールの説明 災害映像視聴			
第2回目	平時の人間行動と災害時の人間行動			
第3回目	救命処置体験			
第4回目	災害時に起こりやすい問題を考える（クロスロード）			
第5回目	災害時の流言 *レポート 地域のハザードマップ調べ（提出は7回目の授業時）			
第6回目	コミュニケーションと災害時の情報伝達 災害情報弱者			

第7回目	災害時の心と体	*レポート提出日
第8回目	災害弱者	
第9回目	災害食・非常食	
第10回目	災害と援助行動	
第11回目	子どもの悲嘆反応とケア	
第12回目	防災・減災のために	
第13回目	支援者のストレス	支援者支援
第14回目	災害時の心理的支援	期末試験
第15回目	期末試験解説	日頃からの防災行動
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に集中して、しっかりノートをとっている。グループワークで活発に意見を述べ、他のメンバーへの配慮ができる。
レポート	30%	課題の目的を理解し、詳細に課題を探求し、内容構成がしっかりしている。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	知識を問う正誤問題と論述問題を実施する。正確な知識、内容の妥当性、読み手を意識した表現と記述、考察の深さを評価する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
必要に応じて資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
長期の避難生活を送る方たちの心情を理解しようと努めることを期待する。		